

ライター火遊びの危険性

校長 田中 準三

11月26日(火)から1泊2日で6年生と一緒に広島方面へ修学旅行に行っていました。子供たちは平和公園や本川小学校での学習をはじめ、様々な活動に生き生きと取り組んでいました。とりわけ子供たちの大きな関心事が宮島での買い物だったようで、自分のものや家の人へのおみやげを財布とにらめっこしながら上手に買っていたのが印象的でした。6年生にとってこの2日間は、小学校生活の大きな思い出の1ページになったことと思います。いよいよ12月、師走を迎えました。1年の締めくくりとして子供たちにとって素敵な年末になればと願っています。

少し古いデータですが消費者庁が火遊びによる火災実態を調査したところ、平成16年からの5年間でライターによる火災の発生件数が18の政令指定都市で約1300件ありましたが、特に12歳以下の子供によるものがその4割を占めていたそうです。

ちなみに、平成24年に神戸市内で発生した火遊びは14件でしたが、平成25年は6月末現在ですでに昨年を上回る16件が発生しています。また、平成18年からの5年間のライターによる火遊び火災は85件でしたが、それは神戸市全体の実に7割以上になっており、その多くに小学生が関係しています。ライターによる火遊びの低減に向けた取組として子供が容易に点火することのできないチャイルドレジスタンス機能を付与することを義務づけた法令が施行され、ある程度の火遊び火災の減少が見込まれますが、小学生でも高学年となれば火をつけることは可能であり、まして道端に落ちているライターにはそうした機能のないものが多数あることも事実です。(私の経験でも道で拾ったライターで火遊びをして火災になるケースがありました。)

冬本番を迎え、火が恋しくなる季節となりました。ただ、空気の乾燥によって年中で一番火災の多いのもこの時期です。好奇心旺盛な子供たちにとって、火遊びは大きな興味をそそられるものかも知れません。しかし、重大な結果を招かないために少なくとも家庭にあるライターの管理には細心の注意をお願いするとともに、お子様にもお話しいただければと存じます。

「♪垣根の垣根の曲がり角、焚き火だ 焚き火だ 落ち葉焚き……♪」

余談ですが、私の子供の頃は、「おとな」が用意した焚き火にあたってよく暖をとったものでした。今はそうした風情もあまりなく、ちょっぴり寂しさを覚えます。それだけ私が年をとっただけのことかも知れませんが……？